

5S研修会の開催

3月2日(土)午後、バスをチャーターして5S運動に積極的に取り組んでいるMグレードの(株)東和鉄工(茨城県牛久市)の工場見学を青年部が主体的に実施した。冒頭岸部理事長は「神奈川の工場は狭小な工場が多く、本日は5S運動に精力的に取り組んでいる東和鉄工のやり方を余さず吸収して行ってほしい」、また、田中青年部会長は「昨年の研修も勉強になったと思うが、今回も自分の目で捉えて大いに自社の参考にしてもらいたい」と挨拶があった。まず工場見学を行い、その後小林東和鉄工社長が5S運動の社内の取組みについて概説した。「整理整頓では限られたスペースなので不用品は思い切って処分する、ダブっている道具類は別のところに保管する、日常使用するものは所定の場所に置く。清掃は常日頃やるが明日同じ作業をするにしても終日には片付けさせる、チェックシートはパウチで作成し書いたり消したり出来るようにしている。しつけは正しく習慣付けることが重要なので5Sの意義を朝礼などの機会を捉えて皆で共有することになっている。また、鋼材の種別などにマグネットプレートを活用し、だれでもわかり易いように“見える化”を推進している。挨拶の励行など声掛け運動も行っている。誰が何をしているか皆がわかるように作業の共有化を推奨している。5S運動の実践にあたっての注意点は、大企業の取り組み方を真似しては失敗する、自然の流れで行うようにする。従業員に任せっきりするのではなく自らも取り組む、部分的に行うのではなく全部同時的に行う。時間がかかるものならば会社の業務の流れを止めてでも実施する。」と説明された。具体的には写真に掲載してある通り、意識付けのために敷地内に看板を立て、そこで使う工具類等を台車にまとめている、バタ角置き場には長さにより色付けを行い、治具工具は種類ごとに棚にまとめ、長尺材は長さごとに区分して棚に収納して単位のプレートを貼っている。要するに治具工具材料はマグネットやペンで種別し整理してコンパクトに収納する。掃除用具はエリアごとに置いてゴミも分別し、バンドソーなどの所では切りくずが飛び散るので掃除機で吸い取っている。工場は大変に綺麗で年2回1~2日かけて窓、床、柱のコーナーまで徹底的に清掃している。現場にもっていく工具類などは前日に準備して終わったら整備を行う。事務所内も管理化されている。色々な鋼材のサンプルも展示してあり、来所者への理解や発注する際の正確性も期すことができる。このように社内には様々な工夫がなされていて、本県組合員企業も意識をもって自社に合うよう工夫をしていくことが大切であることを教えられ、十分に意義のある工場見学であった。工場見学では梁ロボットのケガキの実演も見学した。



工場見学をはさんで、(株)東和鉄工のご厚意により“アンコウの吊し切り”のイベントがあり、アンコウ鍋の試食も堪能した。工場見学後は土浦の料亭霞月楼において小林社長、鈴木茨城青年部会長らも交え盛大に懇親会が開催された。参加者は18社30名だった。

フルハーネス型安全帯使用作業教育

高所作業において胴ベルト型では墜落時に内蔵損傷などの危険性が指摘されてきたが、墜落防止用器具の名称、範囲、性能要件が見直され、特別教育の受講が義務付けられるなど労安法令改正により、組合でもこの特別教育を3月11日(月)及び14日(木)にかながわ労働プラザにおいて開催した。教育内容としては、作業設備やフルハーネス・ランヤードなどの墜落制止用器具の取扱い方法や点検整備、労働災害防止に関する知識など動画による留意点や説明を受け、関係法令及び器具の装着方法・フックの掛け方など実技を学習した。経験により科目の受講に省略があり、A 6時間(初心者)、B5時間(胴ベルト経験者)、C1時間半(旧フルハーネス経験者)の3コースで、講師は建災防主催の特別教育で講師を務めた小野沢準氏が担当した。受講者は両日でA16名、B57名、C29名の計102名で、受講後各人に修了証が交付された。

役員会だより

3月22日(金)15時30分から組合事務所で開催した。

- ・通常総会時の研修会のテーマは「事業継承のポイント」について取り上げる方向となった。
- ・今年12回目の合同支部会は11月16日(土)に箱根湯本温泉にて開催することが決まった。

31年度建築鉄骨関連資格試験及び講習会開催予定一覧

資格	試験	講習会
鉄骨製作管理技術者 <全構協>	10月26日(土) 1級午前 2級午後 東京会場	9月22日(日) 連合会館 <東京鉄構工業協同組合> 9月上旬(3日コース) <日本溶接技術センター>
溶接管理技術者(後期) <日本溶接協会>	筆記11月上旬 口述11月下~12月上旬	1級9月4~7日他 2級9月4~6日他 <日本溶接協会>
建築鉄骨検査 技術者 <全構協>	製品検査 7月6日(土) 午前 東京会場	6月14(金)~15(土)日 埼玉建産連研修センター <全構協・関東支部>
	超音波 検査 7月6日(土) 午後 東京会場	6月7(金)~8(土)日 埼玉建産連研修センター <全構協・関東支部>

※< >は主催者 ※講習会案内はその時期に組合から連絡します。
※実技試験の実施は主催者のホームページ等で確認してください。



青年部の横顔

No. 16



(有)原鐵工所
専務取締役 三堀 誠
平塚市四之宮2-21-15
TEL 0463-21-2477
FAX 0463-21-2481
E-mail:Hara-tetu@dance.ocn.ne.jp

弊社は、大正2年原鐵工所(個人)として創立、昭和33年に有限会社となりました。重軽量鉄骨の建築施工、橋梁鉄骨付帯工事、鋼材加工等の工場加工から建て方までを行っています。役員2名、経理1名、設計1名、作業員6名の計10名で日々の仕事をこなしています。私は如何に少ない人数で効率よく工場加工や現場作業を行うかスケジュール管理を行い、時には自ら工場加工、現場作業に入り、お客様に喜んで頂ける物造りを目指して日々勉強中です。弊社社長は今年86歳になりますが、未だに工場に出て曲がり取りを行うため大ハンマーを振りバイタリティーに溢れています。

青年部に入り、同じ業種の方々と話す機会が増え、色々な工法、考え方があり勉強になります。今年は息子幸(つかさ)を連れて青年部に参加しようと思っていますので宜しくお願いします。

趣味は特にありませんが、次女がノルディーア北海道でサッカーしていることもあり、関東に試合に来るときは応援に行くことが唯一の楽しみです。

事務局長退任あいさつ

平成20年リーマンショックの年に入職後、この業界は鉄骨需要量が激減し、低単価競争にさらされて組合員数は52社から24年度には42社まで落ち込みました。賦課金で事業運営を賄う組合予算は大変厳しい状況に見舞われて経費の削減を徹底せざるを得ませんでした。

この業界は建築物の骨格である躯体の製作据付という社会的責任の極めて重い役割を負っているにも関わらず、半世紀の間同じ課題に終始しているのが驚きでした。下請け的立場から脱しえず、不況となれば低単価指値、材料の調達難に直面し、非常に弱い立場に置かれ続けています。業界名称さえ統一出来ていません。

入職前の面接では加藤卓郎副理事長(当時)は「この業界はヤクザの集まりのように思っているかもしれないが、皆“紳士”だよ」とおっしゃっていたのが印象的でした。実際にも真面目に黙々と取り組んでいるのがわかりましたが、大人しくて対外的にも主張しないのが気になりました。これからは働き方改革など大きな潮目を迎えています。業界基盤の立て直しは青年部に課せられています。コミュニケーションも大切ですが業界の飛躍に向けて課題を一つ一つ解決して行ってほしいと思います。

事務局は65歳定年ですが、組合財務基盤の立て直し、岸部理事長の関東支部長就任とにより凶らずも長居をしてしまいました。11年の長きにわたり大変お世話になりました。業界のご発展を切に願っています。後任には組合初の女性局長となる目黒節子氏が県を退職して就任します。どうぞよろしく願いいたします。 [清水克明]